

円体に強く突き出ているものがある。膜面は平滑で微粒構造は認められない。

この型は形が球またはだ円体で、大きさは大きく、膜面に長三角形の突起が輪状にならんだ rosette を 4—8 個もつ点で次の型と区別される。

#### 8. Lejeunea 型 (1 図 N)

外部形態は長いだ円体であるが、多くの場合孢子膜にしわがあつて、輪郭は角ばった不整形となる。大きさは  $14-30 \times 31-74 \mu$ 。孢子膜には数個または 10 数個の rosette をもつが、やや不明瞭なものもある。rosette を形づくる突起は、やや扁平で長三角形の突起の先端が膜面からはなれているものと、平面観では三角形に見えるが、輪状に数個内側にむいてならんだ三角形の頂端が、膜面から離れていないものがある。rosette 以外の膜面には細かなイボ状突起か、それらが集合して平面観で曲った線状または分岐した樹枝状に見える不規則な突起がある。これらの突起を側面よりみると、棒状又は円頭か頂部の太くなった頭状、あるいは 2—4 分岐したものなど多形である。孢子膜には微粒構造はみられない。ときに種によっては中央部に円形の突起を欠く部分 (aperture) をもつものがある。

この型は Ptychantus 型と同様に突起の集合した rosette をもつが、その数が多く、外部形態が長いだ円体であり、膜面の突起が単一の円錐形でなく、多形でイボ状またはその複合した不規則なものであるなどの点で、他の型から区別される。

---

**□酢酸ビニールの利用法 2 例** 酢酸ビニールは水溶性接着剤として市販されており、腊葉の貼付や修理において、用い方によっては好結果を得ている。最近筆者が経験した他の利用法を紹介する。

1. 微小解剖標本の保存 腊葉の一部、特に小さな花などを煮もどして解剖、観察した後、現物をそのまま放置すれば再び干からびてしまい、大ていは失われてしまう。観察や写生を終った後、水中で形を直して十分展開させ、台紙上に酢酸ビニールを 1 滴落してこの中に埋め、上からセロハンを当てて軽く圧しておく。こうすると半日くらいで乾いて透明になり、後日の観察にきわめて便利である。スライドガラス上でこれを行えば、顕微鏡で見るときにも便利だろう。

2. 植物遺体の保存 植物遺体やそれを含む土塊は、そのまま放置すれば、乾いて粉々になってしまうことが多い。酢酸ビニールを水でうすくといて、表面全体にぬっておくと、これを防ぐことができ、取扱いの際もよごれが出なくて便利である。(金井弘夫)